

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	プレイハウスあゆむ	
○保護者評価実施期間	2026年1月27日	～ 2026年2月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 18	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026年1月16日	～ 2026年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日	

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一般型の事業所であって医療的ケア児、重度心身障害児の受け入れができ、その他の障害児との触れ合い・関わりの場が持てること。	・看護師人材の確保 ・医療的ケア、重心の子どもさんの状態に合わせ、可能な部分は他の児童と同じ活動に参加できるようにしている。外出時などもケアのできる場所の事前確保などを行っている。 ・必要に応じ、スペースの区分けをしている。 ・可能な限り、全員が参加できるようレクリエーションやイベント等のやり方に配慮・工夫している。	・看護人材の確保と知識・技術の習得の機会を増やし、誰もが同じレベルの支援と保護者対応ができるようにしていく。 ・看護師以外の職員が関わる時間が増やせるように、活動時間や内容を決めていく。 ・看護師の担当者会議への出席。 ・利用児童同士が関わりを持てるように外出等の機会を増やせるようにする。 ・より多くの種類のレクやイベントを実施していく。
2	常勤STによる専門的支援。	・専門的視点でコミュニケーション面や、看護師を含めて嚙下等についてもスタッフと話し合い、支援の計画と実施をする。 ・個別での訓練を実施している。	・STの担当者会議への出席。 ・STではないスタッフも可能な支援ができるようにする。
3	利用者の8割以上は相談支援の利用があり、関係者間の連携が取れやすい。	・相談支援を利用されていない方には、相談支援をできるだけ利用していただくよう伝え、相談支援専門員を紹介している。	・相談支援専門員が見つからない等でセルフプランの方には、当事業所が中心となって関係者連携の場を持てるようにしていく。
4	職種ごとの連携ができています。	声掛けをしながら支援を行っている。	各自のスキルアップ
5	看護師がほぼ毎日勤務している。	医療ケア児以外の体調管理もやっている。	カンファレンス等の情報共有ができる機会をさらに増やす。
6	定期的に、支援会議をスタッフ全員で時間をかけて実施している。	誰でも意見しやすい雰囲気づくり。日々の小さな気付き等も共有している。	頻度を増やす。
7	社会生活、ADL、身体機能を高めるためのプログラムを行っている。	子どもの生活全体を活動に盛り込んでいる。(おやつ・レクリエーション・制作・余暇・必要な訓練等)	マンネリ化しないようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	諸事義務化に伴う事柄についての書面や記録など書類作成業務が増大しているが、日常業務のなか、じっくりと検討・作成・実施の時間を確保することが難しい。また、災害マニュアル等の書類を保護者へ周知・説明も難しい。	・書類業務の担当を現職スタッフのなかで決めるのは限定される。人材不足。 ・マニュアル等の周知・説明の方法。配布して説明するほど、保護者から求められているのか必要性が不明。	・人材の雇用が難しいなか限られたスタッフで事業所内だけで実施していくのは難しいため、所属団体や他事業所との連携により研修の実施や合同での勉強会などを利用していく。 ・マニュアルは専用ソフト上に掲載する
2	設備の問題	・建物の経年劣化 ・トイレ介助が必要な児童が多いのに対し、洋式トイレが1箇所だけ。	・壁紙だけでも替えてみる ・トイレ誘導の順番、タイミングを工夫する。
3	スタッフ個々のスキル	支援(知識、経験)にバラつきがある。	勉強会等への参加機会を更に増やし、参加者から事業所内への共有の徹底。